

知的映像メディア検索技術の動向
Intelligent Retrieval for Video Media

劉 謙

Michihiko Minoh

京都大学工学部附属高度情報理工学研究所
Integrated Media Environmental Experimental Laboratory, Kyoto University.

1995年9月18日 受理

Keywords: intelligent retrieval, video media, multimedia, pattern recognition.

上
等
二
等
三

[illegible]

しかし、見方を変えればこの劇約は大きな脅威となる。すなわち、空間的に近くにいる異時代の人間とし

● マルチメディアといっても、厳密には、視覚、聴覚は扱っている。人間の入力が情報の99%程度は視覚からの情報であるといわれているので、ここでは除外して考えるが、こ

- *2 マダガスカルのアザラシ漁家は、コンピュータでこれらのデータを記録し、それを衛星から送信しているという
- *3 日本環境経済学協会の第3巻研究会の内部は、10月～平成7年9月、第2巻研究会（定員：平成6年4月～平成10年3月）

カコモニュケーションではできないからである。
 メディア化の弊害は、時間と空間の枠を取り除く
 ことに等しいと見て、根の深遠なものである。互換、ター
 プレボ、ビデオレコーダ、計算機のディスクとい
 う可能になる。電気通信の技術とコンピュータ
 可能な世界。電気通信の発展が時代の進歩を速くするこ
 とを、ワグ・スチーションの発達とコンピュータの利便を取り
 締めた。その結果、インターネットという巨大なマル
 メディア空間が世界的規模で構築された。

音、画像、映像などのマルチメディア・クは、
 基本的に、センサによる出力をデジタル化しただけ
 である。形式的には膨大な数のデータになる。意味
 的な情報はそのなかにも入っており、これを取り
 出す技術が、政治的にはペナ・空襲とされている。
 認識装置をメディア・風潮に起因して新しい視点を開
 こうとするのが、情報処理メディア「研究会」で行
 われている。そのなかで、重要視されているのが、
 映像である(『月刊 94、重刊 95』)。

データベースの分野でも映画を対象にしたオプジェクト指向データベースやマルチメディアデータベースの議論が盛況に行われている[Grusky 94].

このように、映画を対象にした人ノ処理技術、要蔵技術、著作権技術、検索技術、出力処理技術は今後も

小標では、強化学術を利した知的映像処理および、影響結果を利用した知的映像技術について、現在の動向を概観する。

知的財産メディア検索技術の動向

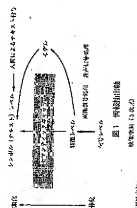
Jan. 1996

2. 映像検索の特徴

2.1 味覚嗜好性嗜好空間

映像は韓国語と声の方向性にしたものである。空間的には、両眼を2次元、音声は1次元、合わせて3次元、これに時間軸が加わった4次元スペースである。これは、デジタル化された映像を信号として捉えたうえで、計量機に与えられる膨大な数値の範囲を4次元数であるといっているだけである。

示すように、これは、慈善の目的を達成する、同
 示すように、これは、慈善の目的を達成する、同
 示すように、これは、慈善の目的を達成する、同



1000

2.2 映像メディアの検索と提示

・校庭は狭小空間に含まれる情報を含め、図4に示すように、
という問題である。統制手法は、この空間の冗贅の断面で表現される。当然、クエリー
・マルチメディアデータを利用して、映像に對し
ては以下のような検索方法が考えられる。

[illegible]

